

いかめしく、とことんストレスフリーを求める 整頓魔ドイツ

豊田洋美

■講演者……豊田洋美（フェリス女学院大学非常勤講

師）

■司 会……林 史樹（本学アジア言語学科教授）

はじめに

ドイツに関して、一般的に想起されるものは何であろうか。往々にして「堅牢」「頑丈」「武骨」「重厚」「ゴツイ」といったイメージが多かれ少なかれあるように思われる。そしてたしかにそのイメージは決定的外れではなさそうだ。ただ、イメージはあくまでイメージである。では、実際に、ドイツ人の会話や日常生活の中で頻繁に聞かれ体現されている言葉から具体性を追求してみたい。

そのような言葉の一つに、Ordnung（オールドマング）という名詞がある。英語なら order にあたり、要するに「秩序」「整然」としていること、またその状態「規律」を表す名詞で

ある。そこから考えると、先にあげたドイツ・イメージがさらに広がりをもたせられるかもしれない。例えば、「四角四面」「規則一辺倒」「融通がきかない」「とつつぎにくい」「息が詰まって肩がこりそう」……。何やらどうも少々ネガティブなイメージばかりが一人歩きしてしまいそうだが、極力中立的に、Ordnung が実際の生活のなかにどのように表れているかをこれから見ていきたい。

公的空間との Ordnung

まずは現実モノを秩序づけ、整理整頓するという場面から見ていきたい。

公的な空間、例えば会社やオフィスといった場所においては、書類の整理は最重要ポイントの一つといつてよいだろう。いかに分かりやすく書類を整理・保存し、管理するかが大切になってくるわけだが、その際に活躍するのがファイル、ド



講演する豊田先生

イツ語でいうところのOrderer(オルドナー)なのだが、これは勿論、Ordnungの派生語、動詞のordnen(オルドネン)から来ている。

この動詞ordnenの意味を一言でいうと、「とことん整理整頓して片付け秩序付ける」となる。その整理整頓を担うのがOrdererである。ちなみに、Ordererには書類整理用ファイル、という意味のほか人間に関しても、「(集会・祭典などの)(会場)整理係、(行進などの)リーダー」という意味もある。まさに、徹底して(gründlich)「秩序をもたらしべき役割を担ったもの」なのだ。

そしてまた、そのドイツのファイル、オルドナーについて紹介すると、日本の一般的なファイルよりもさらに書類を整

理整頓し、管理・収納するためのさまざまな工夫がなされている。書類を綴じるレバーの構造にせよ、また、オルドナーを棚から取り出しやすくするための、背表紙部分の穴の存在にせよ、ことごとく無駄を無くして効率性を追求、つまり混乱を避けるための配慮や努力がなされている。最近では日本のファイルも、以前に比べると随分使いやすいものも出回ってはきているようだが、ドイツのこのオルドナー、発明されたのは一〇〇年以上も前の一八九三年のことだそうである。

またそのオルドナーによって効率化がはかられたドイツのオフィスは、仕事中は多少別としても、仕事の後、帰宅する時には机の上にはほとんど余計なものを置かない、というのが標準的な光景のようである。なるほどこれなら、翌日も仕事が始めやすく、作業効率も上がる上に、ゴチャゴチャした光景が目に入ってこない、つまり視覚からの情報もスッキリ(整理整頓、オルドニング!)していれば、余分なストレスの軽減効果にもつながるだろう。

プライベート空間におけるOrdnung

次に、プライベート空間、まずは、学生下宿における実例から検証を始めたい。

かつて、ドイツ南西部の大学町で、住人の大半は学生というアパートに住んでいたことがある。ここにはキッチンやバ

スルームが完備した部屋は一つもなく、自分の部屋にあるのは（ベッドや机に本棚と、ちよつとした収納家具のほかには）洗面台のみ、というシンプルさ。各フロアにそれぞれ共同のキッチンとシャワールーム、そしてトイレがあるだけである。こういった設備を十数人が共同使用するとなれば、時には不快な思いをすることも無くはないだろう、と思っていたが、予想に反して、そういった不快感ほとんど感じなかったのである。総じて「清潔さ」という秩序、オールドヌングを保とうという姿勢が貫かれていたように思われる。そうすると今度は、気が付かないうちに自分が他の住人に不快感を与えていないかどうか気がなつて少し疲れてくるほどだった。

そのような毎日のなか、珍しいことに、キッチンの調理台に、吹きこぼれの跡が残っていたことがあった。それを見たときは、不快感を覚えるどころか、むしろ逆に人間くささを感じてホッとしたような気分になつた。大体、学生下宿なんて、そんなにいつもきれいにばかりもしていられない、という思いもあった。

が、その後二〜三日した時のことである。共同キッチンの壁に元々貼つてあった「キッチンをきれいに (Mach die Küche sauber)」という貼り紙の文句の下にさらにダメ押しの下線が引いてあった。その下線がまた、強調効果抜群の目立つ色である。(ピンクだったと記憶している。) 住人たちの誰

の所業かは知る由もなかったが、そういえば共同キッチンでの調理を終えた後、彼(女)らが調理台に飛び散つた汚れを実に丁寧に拭き取る姿が思い出されてくる。いや、丁寧に、というよりは、大仰に言うなら、仇敵に立ち向かうかのような集中した面持ちで掃除していた、といえようか。今にして思えば、「清潔さ」というオールドヌングを守ることへの執念のようなものを垣間見た経験だった。

さて、次は学生下宿ならぬ一般家庭での実例を見てみたい。これは筆者が実際にホームステイ、というか間借りして住んだドイツ人家庭の話である。

第一例は、ミュンヘンのE家でのこと。E家に到着して部屋に案内されてから、家庭内のさまざまな物の置き場や設備の説明を受けたのだが、正直いって、それ以前に住んでいた、先の学生下宿の時よりもさらに内心、緊張した。キッチンでの食器や、シートその他のリネンやタオル類の保管の仕方は、まさにピシットと「隙が無い」という整えられ方だったのである。また、掃除の仕方も、時間と手間を効率よく配分してあるらしく、毎日順繰りに時間と場所を区切つて掃除していたようである。掃除にかける時間にも労力・方法にもオールドヌングが確立しているといわざるをえなかった。

さらにその数年後、再びドイツ人家庭に厄介になることになり、今度は筆者と四〜五歳しか年の違わない独身女性B嬢

のフラットに間借りした。ミュンヘンでの家に比べると、こちらは多少カジュアルに暮らしているようにも思えたが、家の中のどこに何がどのくらいの量で収納されているのかは誰が見ても明らかであり、混乱というものは存在していなかった。比較的、若い世代の住まいでもオールドヌングは徹底していたわけだ。

その他、間借人をおいているわけではない一般家庭においても、まず大抵は家の中の掃除が行き届き、つねに整頓され、スツキリとした空間が保たれているようである。

全般的にいつて、このように、つねにきつちりと整理整頓してオールドヌングを守るということに、彼らが特別に神経をすり減らしていたようには見受けられなかった。ごく自然に「ただ自分が居心地よく過ごすために」整理整頓を心がけていた、という風情であった。

なかには、例外的に、散らかったカオス的空間で暮らしている人も皆無ではないと思われるけれども、今のところそういう実例を目にしたことはない。

「万事OK」

今まで、このオールドヌングという言葉・概念が実際の生活空間のなかでいかに体現されているかについてみてきたわけだが、この言葉は、実際の言い回しとしても、日常会話のな

かで頻繁に登場する。それは“Alles in Ordnung.”（「万事OK」という言い方である。Allesが全てという意味で、つまりこの表現をあえて直訳すれば「全てが秩序のなかにおさまっている」となる。この表現の仕方に、オールドヌングというものがいかに重要視されているかが表れているととらえたら、見方ががちすぎだろうか。

また、「万事何の支障もなく順調だ」という場合、さらに仰々しく“Alles ist in schöner (bester) Ordnung.”と表現する。オールドヌングという言葉を、形容詞 schön（美しい、素敵な）あるいは gut（良い）の最上級を用いて修飾しているのだ。そして最上級など持ち出さないまでも、“In Ordnung.”（「よろしい、承知した」という表現もよく耳にするが、直訳するなら、「秩序のなかにおさまっている」ということである。要するに、「秩序のなかにあること、秩序づいていること」が「良きこと」、「あるべき（正常な）状態」だという価値観とされているということなのだろう。

ところで、この Ordnungsliebe（Liebeは愛、つまりオールドヌングスリーベとは「几帳面」「整頓好き」の意）は、つまるところ、オールドヌングが自己目的化してしまった、オールドヌングのためのオールドヌング、なのだろうか？

ゲミュートリヒカイト (Gemütlichkeit) を求めて

さて、ここで一度オールドヌングとは別の言葉について考えてみたい。それはやはり日常よく耳にする言葉で「ゲミュートリヒカイト (Gemütlichkeit)」という語である。直訳できる日本語はほとんど見当たらない、翻訳し難い言葉の一つであるが、あえて言うなら「くつろいで安心できる心地よさ」とでも言い表すことになるだろうか。筆者としては、この語を「ストレスフリーで安心していられる状態」と表現したい。

このゲミュートリヒカイトという語は、先に述べてきた「四角四面で秩序一点ばり」のオールドヌングとは一見、無関係あるいは真逆であるかのような印象を与えるかもしれない。だが、この両者、実は切っても切れないつながり、コインの裏表のような関係にあるのではないだろうか。というのは、ゲミュートリヒカイトを追求するには、ある種の条件が必要になると考えられるからである。その条件の一つが、オールドヌングなのではないかと考えられるのだ。

ゲミュートリヒカイトとはストレスフリーな状態ではないか、と述べたが、例えば会社や仕事において、ストレスゼロというのは、まず考えられないだろう。では、そのなかでいかにストレスを軽減するか。そのためには、仕事で可能な限り余計な手間ひまをかけないようにすることも一つの手段であり、そのためにはオールドヌングと秩序の維持・管理が不可

欠である。もしもカオス状態のなかで仕事、などといったらストレスは増すばかりだろう。だから少しでもストレスを少なくする、あるいは回避しようと思えばために、ドイツ人はとことんオールドヌングを重んじるのだ、と解釈できるのではないだろうか。オールドヌングとは、最終的にはゲミュートリヒカイトをとことん求めるがゆえの重要な手段になっているのだと考えると納得がいくのである。

家庭内でのゲミュートリヒカイトにしても、モノがあふれかえって乱雑に散らかした状態では、ストレスフリー状態などとても覚束ない。掃除を徹底してとことん家の中をきれいに保つことによって、ひたすらゲミュートリヒカイトを求めらるのだ。

ゲミュートリヒカイトの追求といえば、閉店法 (Zaden-schlussgesetz, ラーデンシュルスゲゼツ) も、時間の整理と家庭内ゲミュートリヒカイトには一役買ったといえよう。この法律は、週の営業時間の上限を定め、その範囲内であれば営業してよい、という法律である。この規定により、かつては平日は午後六時から六時半、土曜日は長くて午後四時までしか一般商店が営業しておらず、日曜日は全面的にクローズ、というのが普通だった。(飲食店や駅の売店などは例外。)筆者も当初はこの法律に驚き、戸惑っていたのだが、気が付くと、夕方以降の時間が有効に使えるようになっていた。

つまり、時間的オールドマングがつけやすくなっていたのである。これが一般家庭なら、家族の団欒の時間も持ちやすくなることだろう。買い物には不便な面もあった閉店法だが、一方では団欒というゲミュートリヒカイトの実現には役立っていた面がたしかにあったようである。(現在ではこの法律はずいぶん緩和され、大規模店舗の営業時間は延長傾向にあるが、個人商店などはその限りではない。)

また、ゲミュートリヒカイトの追求、といえば、ドイツ人が重視する休暇(Unterbau)の過ごし方にも、徹底してゲミュートリヒカイトを求める傾向が現れているようだ。個人差はあっても、二〜三週間の休暇の間、とにかくひたすらのおんびりする、という人が多数派のようである。どうやら心血注いでストレスフリーな状態を求めているらしい。

まとめ

最後になったが、ドイツのことわざを一つ紹介しておきたい。“Ordnung ist das halbe Leben.”(オールドマング イストダス ハルベ レーベン)、というものである。意味するところは「人生・生活の半分は秩序だ。(秩序・整理がしっかりしていれば人生・生活は大丈夫である。そうしたらあとは人生を楽しむことが出来る)」。人生を楽しむというのは、これはきつと、とにかくストレスから解放されて、とことんゲミュ

トリヒカイトに浸りきる、という意味なのではないだろうか。オールドマング重視という点、たしかにいかめしく、しかつめらしい。しかしながら、いかめしいの一点張りでもない。秩序付けるのも徹底的だが、ゲミュートリヒカイトの追求も、徹底的である。つまるところ、とことんゲミュートリヒカイトを求めるがゆえにオールドマングを徹底させているのではないかと思われるのではないのである。

参考文献

- 犬養道子『ヨーロッパの心』(岩波新書、一九九一年)
- 小塩節『ドイツざつくばらん』(日本放送出版協会、一九八九年)
- 小塩節『ドイツ語とドイツ人気質』(講談社学術文庫、一九八八年)
- 小塩節『ドイツの都市と生活文化』(講談社学術文庫、一九九三年)
- 熊谷徹『住まなきやわからないドイツ』(新潮社、二〇〇三年)
- 熊谷徹『びっくり先進国ドイツ』(新潮社、二〇〇七年)
- 『独和大辞典』(小学館)



シリーズ全回ご協力いただいた林先生



会場風景

キーワード

- ① Ordnung (オールドマンング)
- ② Gründlichkeit (グリュントリヒカイト)/gründlich (グリュントリヒ)
- ③ Alles in Ordnung (アレス イン オールドマンング)
- ④ Alles ist in schönster (besten) Ordnung. (アレス イ ト ダス ハルベ レーベン)
- ⑤ Ordnungsliebe (オールドマンングスリーベ)
- ⑥ Gemütlichkeit (ゲミュートリヒカイト)
- ⑦ Urlaub (ヴァアラウプ)
- ⑧ Ordnung ist das halbe Leben. (オールドマンング イス ト ダス ハルベ レーベン)